

## 生産工程管理の研修会を開催

【平成 30 年 12 月 3 日掲載】

当所では、11 月 14 日庄原市川北町のキャベツほ場で、農作業の負担軽減と効率化について所内研修を行いました。

研修では、医学博士で(有)ウド・エルゴ研究所の宇土博(うどひろし)所長を招き、(株)vegeta のキャベツ収穫作業現場で実施しました。作業者ごとに収穫作業の状況をビデオ撮影し、作業スピードと収穫手順について分析しました。その中で、収穫包丁が、作業者ごとに使い勝手のよいように改良されていること、作業者の手の向きや両手の動きなど細かな動きやほ場全体での作業者の動線が確認できました。

その後、県庄原庁舎会議室で、宇土氏より「農作業の負担軽減と効率的な作業の考え方～ワークデザインの考え方～」をテーマに、収穫時に身体への負担の大きい作業の洗い出しの方法や改善提案についての講演を受けました。収穫作業とコンテナへの搬入作業では、腰の曲げ伸ばし等腰痛の原因となる動きがあること、それに対する改善提案の1つとして、腰痛予防ベルトの説明を受け、幅の狭いベルトで骨盤を固定する方法を学びました。

当日は、生産者と普及指導員で、農作業の負担軽減と効率化に向け、多くの注意点を学ぶことができ、有意義な研修となりました。

なお、(株)vegeta の谷口浩一(たにぐちこういち)社長は、「改善できる事はすぐに行う。」と腰痛ベルトの購入を即決されました。

【キャベツ圃場の収穫作業】



【宇土氏と着眼点について意見交換】

